

今後の暮らしの重要なカギは 「身近な地域の支え合い」

歳を重ねるにつれ体力や気力が衰え、人と会う機会が減り、中には1日誰とも話さない日があるという声も聞きます。今後の生活の基盤となる身近な地域でのつながりやお互いを気にかけて合うことがこれまで以上に重要となります。



こんな時、あなたならどうしますか？



蛍光灯を交換してほしい…

介護サービスでは生活の細かな困りごとをすぐに解消することはできません。地域の人に気軽に頼めるような関係作りが重要です。



誰かとゆんたくしたいけど…

年とともに同じ趣味の人や同年代の人と話ができる場所が減り、一人で過ごす時間が増えてしまいます。地域で集える場所やサークルがないか探してみましょう。



歩くことが不安で外出できない…

筋力の衰えと共に、歩くことが不安になり、一人で歩いて地域の活動に参加することが難しくなってきます。一緒に行ってくれる仲間の手助けが必要です。

住み慣れた地域で
いつまでも暮らしたい

今から考える あなたの未来像

人は必ず年を取り、誰もが周りの手助けを必要とする時が来ます。高齢者を支える現役世代が減る一方で、65歳以上の高齢者の人口は増え続けます。

これからさらに高齢化が進む中、将来のために私たちにできることは何かを一緒に考えましょう。



1 生活支援コーディネーターの皆さん2～3 触れ合いを通じて地域の高齢者を支えています4 地域課題などを住民と共有し、地域と一緒に解決できるよう話し合います

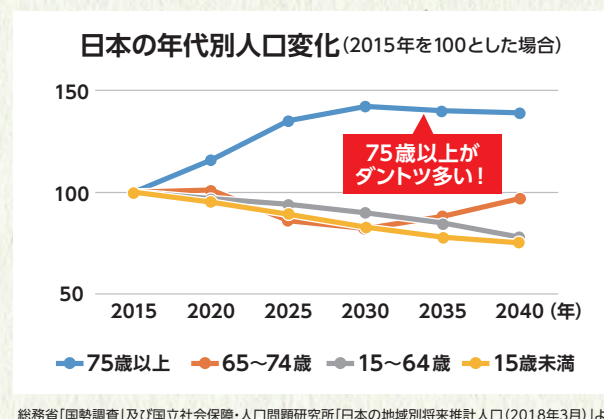


「困った」と「助けたい」をつなげて
暮らしやすい地域へとサポート

地域の求める声を拾う
生活支援コーディネーター

支え合う地域づくりを推進するため、各中学校区に高齢者の生活支援について住民と一緒に考え、取り組んでいく生活支援コーディネーターがいます。コーディネーターは、地域に住む人たちの交流を通し、自主的な活動を把握しながら、さまざまな声をヒン

トに地域内で支え合える体制づくりのお手伝いをしています。活動例として、近所のスーパーが移転したために買い物に困った高齢者の話を聞き、民間企業に協力を募り、移動サービスによる買い物支援や移動販売サービスを受けられるよう働きかけました。このように、ボランティア支援や地域住民同士の取り組みを応援しています。



20年後、市民の4人に1人は65歳以上の高齢者へ

2025年に団塊の世代が75歳以上の高齢者となると、住民の医療や介護の需要がさらに増加すると見込まれています。しかし、少子高齢社会ではあらゆる産業で人手不足になると言われています。介護の分野でも高齢者を支え、サービスを提供する働き手

これからの超高齢社会、
より一層の支え合いが必要不可欠に

は減り続けており、介護の担い手不足が課題となっています。今後、介護保険サービスを受ける人も提供する人もサービスのあり方を見直す必要があります。

行政サービスだけでなく
全員を支えることは難しい

沖縄県は、全国と比べて高齢化率は低いにも関わらず、介護保険サービスを利用する割合が高いと言われています。その原因は高い離婚率の影響により独り暮らしの人が多く、家族の援助を受けにくいことや、早めの介護予防の取り組みが希薄なことが挙げられます。

病気やケガで介護が必要になる前に、比較的元気なうちから、集いの場や地域の活動に参加することで、楽しみながら身近な人同士での見守り合い、助け合いをお互いに継続できる環境が大切です。